

(社) 日本原子力学会 標準委員会
第 37 回 原子燃料サイクル専門部会 (FTC) 議事録

1. 日時 2009 年 3 月 27 日 (金) 13:30~16:35
2. 場所 日本原子力技術協会 会議室 A, B
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
(出席委員) 田中 (部会長), 駒田 (副部会長), 加藤 (和) (幹事), 阿部 (昌), 荒木, 有江, 有富, 猪俣, 加藤 (正), 木村, 白井, 新堀, 深澤, 堀川, 前川 (15 名)
(代理出席委員)
奥野 (内山代理), 中居 (金木代理), 武部 (高橋代理), 杉山 (仲神代理) (4 名)
(欠席委員) 井口, 川上, 小佐古, 近藤, 坂下, 中島, 松尾, 森山 (8 名)
(出席常時参加者) 菊池 (1 名)
(欠席常時参加者) 宮川 (1 名)
(説明者) 川上 (リサイクル燃料貯蔵分科会) (1 名)
(傍聴者) 五十嵐 (1 名)
(事務局) 岡村, 谷井
4. 配付資料
FTC37-1 第 36 回原子燃料サイクル専門部会議事録 (案)
FTC37-2 人事について (分科会)
FTC37-3-1 【本報告】 AESJ-SC-F002-2008 使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準: 2008 の改定について
FTC37-3-2 日本原子力学会標準「使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準: 200〇」(改定案) (「使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準: 2008」との比較を含む。)
FTC37-3-3 日本原子力学会標準 使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準: 200〇 (改定案)
FTC37-4-1 原子燃料サイクル専門部会の 2009 年度活動計画 (案)
FTC37-4-2 原子燃料サイクル専門部会における標準策定スケジュール案 (至近 3 年)
FTC37-5 追補の運用について(案)
FTC37-6 -1 標準委員会の活動状況
FTC37-6 -2 標準委員会の改革について
FTC37-6 -3 原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況報告
参考資料
FTC37-参考 1 原子燃料サイクル専門部会委員任期一覧

5. 議事内容

(1) 出席者の確認

開始時、27名の委員のうち、代理委員を含め19名の出席があり、成立に必要な委員数(18名)を満足している旨が事務局から報告された。

(2) 前回議事録の確認

前回議事録(FTC37-1)が承認された。

(3) 人事について(専門部会人事)

事務局から、FTC37-2に沿って、リサイクル燃料貯蔵分科会の馬場 隆雄氏(東芝(株))の退任が報告され、その後任として、道券 禎貴氏(東芝(株))が推薦されている旨を説明し、決議の結果、承認された。

(4) 【本報告】AESJ-SC-F002-2008 使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準：2008の改定について

リサイクル燃料貯蔵分科会の有富主査及び川上委員から、FTC37-3-1、FTC37-3-2及びFTC37-3-3に沿って、ESJ-SC-F002-2008 使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準：2008の改定についての本報告が行われた。

決議の結果、原子燃料サイクル専門部会書面投票を実施することが承認された。ただし、今回の投票は電中研の報告書のデータを引用する“図L.7-密閉性能健全性の確認の推定(2006年3月現在)”についてはデータ更新なしで行うが、次の原子燃料サイクル専門部会でデータを更新した内容を説明することとなった。

主な質疑事項：

- ・ 4.2.2 密閉設計 a)輸送時 1)設計要求事項 従来の標準では、この設計要求事項の項で附属書参照としていた。この改訂版では参照がないが、必要ではないか。
→ 採承。密閉境界形成の考え方は、附属書Gによる旨記載を追加する。b)貯蔵時 1)設計要求事項についても同様に追加する。
- ・ “表1-検査段階ごとに行う検査項目”中注記において“・・・実機と同等の取合い寸法・・・”は“・・・実機と同一の取合い寸法・・・”がよいのではないか。
→ 採承。
- ・ バスケットの形状検査はどうするのか。
→ 記録の受け渡しで最初の形状が変わっていないことを確認する。
主に圧力検査である。

(5) 原子燃料サイクル専門部会 2009 年度活動計画について(審議)

事務局から、FTC37-4-1 及び FTC37-4-1 に沿って、標準委員会の活動状況が報告され、他専門部会との整合をとりながら進めるということで標準委員会にあげることが承認された。

(6) 追補の運用について(案)

事務局から、FTC37-5 に沿って、追補の運用について(案)が報告され、具体的な考え方を示してはどうかとの意見があったことを標準委員会で紹介することで承認された。

(7) 標準委員会の活動状況について

事務局から、FTC37-6-1, FTC37-6-2 及び FTC37-6-3 に沿って、標準委員会の活動状況が報告された。

6. 今後の予定

次回専門部会は、平成 21 年 5 月 26 日(火)と仮決めされた。

以 上